

東京都におけるエイズの現状
～ 現在の課題と今後の方向性 ～

資料編

東京都エイズ専門家会議

資料編 目次

【 1 】エイズについて（エイズの特徴とこれまでのエイズ対策）	1
エイズの特徴とこれまでのエイズ対策（概要）	1
図 1 HIVに感染してからの経過	1
図 2 6か月以上HAARTを受けていた患者がエイズ関連疾患で死亡した割合 （対入院患者数）（平成8(1996)年～平成17(2005)年）	2
表 1 エイズ対策年表	3
表 2 国が指定する対策を強化すべき都道府県等	6
図 3 東京都のエイズ対策施策体系図（平成20年度）	7
表 3 東京都のエイズ対策予算の推移 （平成11(1999)年度～平成20(2008)年度）	8
表 4 エイズ啓発拠点「ふぉー・ていー」実績 （平成18(2006)年度～平成20(2008)年度）	9
表 5 東京都が実施しているHIV検査実施場所一覧 （平成20(2008)年度）	10
【 2 】全国及び東京のHIV感染者及びエイズ患者の発生動向	11
『全国』	11
全国のHIV感染者及びエイズ患者について（概要）	11
図 4 全国のHIV感染者及びエイズ患者報告数年次推移 （平成10(1998)年～平成19(2007)年）	11
図 5 全国のHIV感染者及びエイズ患者国籍別・性別報告数年次推移 （平成10(1998)年～平成19(2007)年）	12
図 6 全国のHIV感染者及びエイズ患者推定感染経路別報告数年次推移 （平成10(1998)年～平成19(2007)年）	12
図 7 全国のHIV感染者及びエイズ患者年齢別割合	
(a)平成19(2007)年新規報告	13
(b)全国 日本国籍 初診時のHIV感染者及びエイズ患者年齢分布 （平成15(2003)年～平成19(2007)年累積数）	14
(c)全国 外国籍 初診時のHIV感染者及びエイズ患者年齢分布 （平成15(2003)年～平成19(2007)年累積数）	14
図 8 全国の年代別「発症後にHIV感染が分かる事例」の割合 （平成19(2007)年）	15
図 9 献血件数とHIV陽性者の割合の推移 （昭和62(1987)～平成19(2007)年）	15
図 10 出生数と報告された感染妊婦件数の比較 （昭和59(1984)年～平成18(2006)年）	16
『東京』	17
東京のHIV感染者及びエイズ患者について（概要）	17
図 11 東京都のHIV感染者及びエイズ患者報告数年次推移 （平成元(1989)年～平成19(2007)年）	17
図 12 東京都のHIV感染者及びエイズ患者国籍別・性別報告数年次推移 （平成10(1998)年～平成19(2007)年）	18
図 13 東京都のHIV感染者及びエイズ患者推定感染経路別報告数年次推移 （平成10(1998)年～平成19(2007)年）	18
図 14 東京都のHIV感染者及びエイズ患者年齢別割合	
(a)平成19(2007)年新規報告	19
(b)東京都 日本国籍 初診時のHIV感染者・エイズ患者年齢分布 （平成15(2003)年～平成19(2007)年累積数）	19
(c)東京都 外国籍 初診時のHIV感染者及びエイズ患者年齢分布 （平成15(2003)年～平成19(2007)年累積数）	20
図 15 東京都の年代別「発症後にHIV感染が分かる事例」の割合 （平成19(2007)年）	20

表 6 東京都の外国籍H I V感染者及びエイズ患者の国籍 (平成15(2003)年～平成19(2007)年)累積数	21
『全国と東京都の比較』	22
全国と東京都の比較(概要)	22
図 16 東京都と全国のH I V感染者及びエイズ患者報告数年次推移 (平成元(1989)年～平成19(2007)年)	22
図 17 全国に占める東京都のH I V感染者報告数割合年次推移 (平成元(1989)年～平成19(2007)年)	23
図 18 全国に占める東京都のエイズ患者報告数割合年次推移 (平成元(1989)年～平成19(2007)年)	23
図 19 新規感染報告に占めるエイズ患者の割合(全国及び東京都) (平成10(1998)年～平成19(2007)年)	23
表 7 都道府県別の単位人口当たりH I V・エイズ報告数と累積報告数の増加率 (平成14(2002)年～平成18(2006)年)	24
【3】H I V・エイズに関する都民の意識と行動	25
『一般層の意識』	25
一般層の意識(概要)	25
図 20 エイズについての関心度-性・年齢別	25
図 21 エイズについての関心度-職業別	26
図 22 エイズに関して知っていること	26
『現代の若者の行動・意識』	27
現代の若者の行動・意識(概要)	27
図 23 東京都の性器クラミジア感染症の年齢別報告数 (a)平成19(2007)年	27
(b)クラミジア感染症年次別推移(女性)(平成6(1994)年～平成19(2007)年)	28
(c)クラミジア感染症年次別推移(男性)(平成6(1994)年～平成19(2007)年)	28
図 24 性に対する誤った認識又は知識不足の現状	29
『繁華街に集まる個別施策層の行動・意識』	34
繁華街に集まる個別施策層の行動・意識(概要)	34
表 8 新宿2丁目における予防啓発事業の実績	35
図 25 新宿2丁目における予防啓発の効果(アンケート調査結果より) (a)居住地について	36
(b) a k t a 認知について	36
(c)H I V / S T I 予防知識の正答率について	36
(d)自身のエイズにかかる可能性について	36
(e)特定相手とのゴム使用頻度について	36
(f)抗体検査受検経験と受検先について	36
(g)コンドーム購入経験について	37
【4】H I V検査・相談	38
H I V検査・相談について(概要)	38
図 26 東京都と全国の行政機関が実施するH I V検査件数比較 (平成11(1999)年～平成19(2007)年)	38
図 27 都内の行政機関が実施するH I V検査件数・陽性件数 (平成11(1999)年～平成19(2007)年)	39
図 28 都内の行政機関が実施するH I V検査受検者の中の陽性者割合の推移 (平成11(1999)年～平成19(2007)年)	39
図 29 東京都のH I V感染者報告の届出機関別割合 (平成16(2004)年～平成19(2007)年)	40
図 30 島しょ・多摩地域保健所、東京都南新宿検査・相談室の男女別年代別受検者数 (平成19年アンケート集計結果より)	40

図 31	東京都南新宿検査・相談室、東京都多摩地域検査・相談室、 島しょ・多摩地域保健所の職業別受検者割合の比較 (平成19年アンケート集計結果より)	41
図 32	東京都多摩地域検査・相談室における即日(迅速)検査の実績 (平成17(2005)年度～平成19(2007)年度)	41
図 33	東京都エイズ電話相談実績(平成19(2007)年度)	
	(a)相談件数(性別)	42
	(b)相談内容別相談件数(全体)	42
	(c)相談内容別相談件数(陽性者)	43
	医療機関におけるP I C Tについて	44
【5】	医療・療養支援	45
	(1)H I V医療の現状について(概要)	45
	(2)H I V陽性者の現状について(概要)	45
	(3)働いているH I V陽性者の行動・意識について(概要)	45
図 34	エイズ診療拠点病院 外来・入院延べ数年次推移 (平成14(2002)年度～平成19(2007)年度)	45
図 35	外来実績の多い4病院の割合(平成19(2007)年度)	46
表 9	H I V陽性者の病期別外来医療費(月平均)	46
図 36	東京都のHIV感染者及びエイズ患者の累積報告数と身体障害者手帳 (免疫機能障害)交付数(平成10(1998)年～平成19(2007)年)	47
図 37	H I V陽性者の就労状況	48
図 38	H I V陽性者の職場環境の状況	49
図 39	H I V陽性者の通院時間(片道)	51
表 10	自立支援医療を主として担当する医師又は歯科医師の要件	52
図 40	H I V患者を受け入れる基準を決めているか(全国の福祉施設等) (平成17(2005)年)	53
図 41	東京都医師会 病診連携に関する医療機関に対するアンケート調査 (平成18(2006)年)	54
【6】	諸外国の動向	55
	諸外国のH I V感染者及びエイズ患者について(概要)	55
図 42	世界のH I V陽性者(成人・子ども)推計総数(平成19(2007)年末現在)	56
図 43	先進諸国における人口100万人当たりのH I V感染者及びエイズ患者報告数	
	(a)先進諸国における人口100万人当たりのH I V感染者報告数年次推移 (平成5(1993)年～平成18(2006)年)	57
	(b)先進諸国における人口100万人当たりのエイズ患者報告数年次推移 (平成4(1992)年～平成18(2006)年)	57
	(c)西欧諸国の状況	58
	< 英国 >	
図 44	ヨーロッパ先進国の動向(平成15(2003)年～平成18(2006)年)	
	(a)3カ国のH I V / エイズ推定感染経路別割合(平成18(2006)年)	59
	(b)-1 H I V同性間性的接触の年次推移	59
	(b)-2 H I V異性間性的接触の年次推移	59
図 45	英国の動向	
	(a)英国 H I V感染報告数 感染経路別年次推移 (平成7(1995)年～平成19(2007)年)	60
	(b)英国 H I V感染報告 異性間性的接触 性別年次推移 (平成7(1995)年～平成19(2007)年)	60
	(c)英国 H I V感染報告数累計(民族別) (平成7(1995)年～平成20(2008)年)	61
	(d)英国 H I V感染報告数累計(異性間性的接触 民族別) (平成7(1995)年～平成20(2008)年)	61

< ドイツ >	
図 46 ドイツの動向 (平成 8 (1996)年 ~ 平成16(2004)年)	62
エイズ対策の取組事例 ~ ドイツ ~	62
< オーストラリア >	63
図 47 オーストラリアの動向	
(a) HIV 感染者・エイズ患者新規感染報告の推移	63
(昭和56(1981)年 ~ 平成19(2007)年)	
(b) HIV 感染報告の推移 (感染経路別)	63
(平成10(1998)年 ~ 平成18(2006)年)	
(c) エイズ患者報告感染経路別割合の年次推移	64
(平成10(1998)年 ~ 平成18(2006)年)	
エイズ対策の取組事例 ~ オーストラリア ~	64
< アメリカ合衆国 >	65
図 48 アメリカ合衆国の動向	
(a) エイズ患者発生動向 (昭和60(1985)年 ~ 平成18(2006)年)	65
(b) エイズ患者中に各エスニックグループが占める割合	65
(昭和60(1985)年 ~ 平成17(2005)年)	
(c) 年毎の新規感染症例 男性・13歳以上・感染経路別 (33州)	66
(平成15(2003)年 ~ 平成18(2006)年)	
(d) 年毎の新規感染症例 女性・13歳以上・感染経路別 (33州)	66
(平成15(2003)年 ~ 平成18(2006)年)	
(e) アメリカ合衆国における感染報告 (人種別割合)	67
(平成15(2003)年 ~ 平成18(2006)年累計)	
< 東アジア近隣諸国 >	68
図 49 東アジア近隣諸国における HIV 感染者及びエイズ患者報告数年次推移	
(a) 中国 (平成3(1991)年 ~ 平成17(2005)年)	68
(b) 台湾 (昭和59(1984)年 ~ 平成18(2006)年)	68
(c) 香港 (昭和59(1984)年 ~ 平成18(2006)年)	69
(d) 韓国 (昭和61(1986)年 ~ 平成18(2006)年)	69
表 11 海外から日本への入国者数及び日本から各国 (地域) への訪問者数	70
< タイ >	70
図 50 タイで報告されたエイズ患者数とエイズによる死亡者数年間推移	70
(昭和59(1984)年9月 ~ 平成18(2006)年12月)	
エイズ対策の取組事例 ~ タイ ~	71

用語について

本報告では、以下のとおり定義して使用している。

(ただし、図・表中においては引用元の表現を使用している。)

< HIV >

ヒト免疫不全ウイルス (Human Immunodeficiency Virus)。英語標記の頭文字を取った略称

< エイズ (AIDS) >

後天性免疫不全症候群 (Acquired ImmunoDeficiency Syndrome)。

アルファベットは、英語標記の頭文字を取った略称。HIV 感染して免疫機能の低下により、23のエイズ指標疾患のいずれかを発症していること (ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症等)。

< HIV 感染症 >

HIV に感染している状態。エイズ発症の有無を問わない。

< HIV 感染者 >

感染症法に基づく報告時に、エイズ診断の指標となる23疾患を発症していない人

< エイズ患者 >

感染症法に基づく報告時に、エイズ診断の指標となる23疾患のいずれかを発症している人

< HIV 陽性者 >

HIV に感染している人々。エイズ発症の有無を問わない。